

- 1 派遣期日 令和5年11月25日(土)
- 2 派遣先 学校名(会場名) 明星学園小学校・中学校
所在地 東京都三鷹市井の頭5-7-7
<https://www.myojogakuen.ed.jp/>
- 3 研修内容
 - (1) 日程
 - 受付 8:00 ~ 8:40
 - 公開授業Ⅰ 8:45 ~ 9:35
中1 『形』 菊池 寛
「見出しづけ」による対話的な文学作品の読みの授業
 - 公開授業Ⅱ 9:45 ~ 10:35
中3 『猿ヶ島』 太宰 治
文学作品の読みにおける対話を生む授業
 - 全体会 10:50 ~ 12:30
 - 校長挨拶
 - 特別講演 内田 樹 氏
 - 分科会案内
 - 昼食 12:30 ~ 13:30
 - 分科会 13:30 ~ 16:30
 - 明星学園の文学教育 / テーマ『対話を生む発問とは?』
 - 『形』授業検討会
 - 『猿ヶ島』授業検討会
 - まとめ

(2) 明星学園国語科教育の特徴

明星学園の国語科は、創立以来「文学」と「ことば」の学びを二本の柱とし、「対話を通して読みを深め、書くことを通して対話につなげる」をテーマに掲げている。骨のある文学作品をじっくり読んでいくことも特徴である。検定教科書にこだわらず、文庫本を丸ごと一冊扱うこともあり、文学の読みにおいては特に「語り」「視点」の問題に着目している。また、主観の読みに終わらせず、構造的に分析する力も養っている。国語の授業場は、常にテキストへと戻り、根拠を挙げて自分の読みを発表する場としている。

(3) 公開授業Ⅰ 中1 『形』 菊池 寛

本授業は見出しづけの授業を行った。「見出しづけ」とは、その段落の内容をできるだけ短い言葉で正確に表すということである。要約とは異なる一つの表現である。生徒は自分たちの予想である見出しを説明し、質問し合う中でいくつかの対立点を発見する。その中から最もふさわしい「見出し」を選ぶには、文章をしっかりと読み、根拠を自分で見付け出さなくてはならない。自分勝手な読み、思い先行の読みは否定さ

れる。第一段階の筋を追うだけの読みから、何がどのように書かれているかを探る読みへ発展するように、見出し付けにする際に見出しにする言葉の字数を決め考えやすくしていた。また、前後の段落の特徴的な言葉の引用を禁止したり、教師が生徒のつぶやきや結論までは至っていない意見も拾いあげることで、生徒の思考を広げる支援をしていた。さらに、「分からない」という発言を許容し、意見を言いやすい雰囲気作りをすることで、活発な討議が行われ、授業が終わってもなお生徒同士が意見を交わしている光景が見られた。

(4) 公開授業Ⅱ 中3 『猿ヶ島』 太宰 治

本授業は、『猿ヶ島』という作品を取り上げていた。この作品の読者は最初、登場人物を人として読む。しかし読んでいくうちに、それは思い込みで作者にだまされていたことに気づくという謎解きのような面白さを持った作品である。その面白さを生かし、場面ごとに初読をしながら、登場人物の2匹の世界観や人生観の違い、時間の経過とともに捕らわれの身であることに気づいていく心理を読み取ることをねらいとしている。生徒は初読のため、意味調べや分からないところ、気になるところを疑問の形で挙げ、それについて全員で本文からの読み取りを考えていた。積極的に発言する生徒がいる中で、その生徒に押され、発言せずにいる生徒もいるため、そのような生徒の声を拾えるよう教員が支援していた。

(5) 分科会

今回の分科会のテーマが「対話を生む発問とは？」であり、「発問」という一つの観点から「探究」的な授業方法について考えるための意見交換が行われた。明星学園の国語科の研究授業における「探究」的活動とは次のことが意識して行われていた。

- ・発問に対して一人一人が自分の考えを持ち、多様な生徒の意見が取り上げられること。(必ず理由・根拠を言わせる)
- ・発表された意見の違いに気づくこと。
- ・全員が自分の意見をはっきりさせること。ただし、分からないもありだが、なぜ分からないのか、理由も述べる。
- ・テキストに戻り、根拠を抜き出しながら意見交換する。
- ・もっとも説得力のある意見をクラスで選ぶ。

この項目を意識した展開をすることで、生徒が教師の持っている正解を探る授業ではなく、生徒自身が共同的にテキストを根拠に、よりふさわしいと思える解に近づくこと、何でもありにせず、テキストを根拠に解を求める過程を通して、学びが生まれる感じた。参観させていただいた授業は、展開は違えどどちらも上記の項目が意識された授業であり、生徒の意見交換が活発であった。この形を定着させるまでやこの授業展開では時数をかけすぎるなどという意見も出たが、部分的に取り組んだり、繰り返し同じ手法で粘り強く取り組むことで、生徒も授業を楽しみながら成長できるのではないかと感じた。

4 感想

今回の公開研究会を通して、明星学園中学校の様々な活動や成果を知ることができた。「主体的・対話的で深い学び」をするための「問い」や生徒主体で授業が進むように教師がファシリテーターとなる授業展開の方法を実際に目にするすることで、これまでイメージでしかなかったものがより具体的なものとなった。そして、「主体的に学習に取り組む態度」を育むとはどういうものなのかということ学ぶことができた。どれも新鮮で貴重な授業を参観させていただいた。短い時間ではあったが、今回の研修における貴重な経験を、現在所属している中里小中学校での授業や行事、そしてこれからの自分の教員人生にも役に立てていきたい。